

## I 実践

### 1 研究主題

思いやり・助け合い・感謝の心で活動できる児童の育成

### 2 主題設定の理由

本校は、笑顔で健康な生活・夢に向かって生活・感謝の思いで生活する児童の育成を目指している。そのためには、他者との関わりの中で、「一人一人は大切な存在である」と自覚させ、公正公平な態度や思いやり、助け合いの気持ちを育て、感謝の心を育成することが大切である。

そこで、本校の人権教育の目標である「人の悲しみや苦しみ喜びに、豊かに共感しようとする態度を育てる。」を踏まえ、様々な教育活動を通して教師も児童も共に人権教育を意識して取り組んで行きたいと考え本主題を設定した。

### 3 研究の内容

- (1) 豊かな体験活動
- (2) 人権教育
- (3) 道徳教育

### 4 実践内容

#### (1) 豊かな体験活動

##### ア 「さわやかマナーアップ運動」の取組み

6年生や生活委員会が中心となって昇降口前で「朝のあいさつ運動」を行った。「通学路クリーンナップ運動」では、児童が登校しながら通学路に落ちている空き缶やゴミを買い物袋に入れ、その後、分別して昇降口のゴミ箱に捨てる活動を行った。また、「さわやかマナー週間」を週1回設け、よいこのノートの「わたしの1週間」を振り返ることにより、基本的生活習慣を定着させる。これらによって、学校のきまり、社会のルール、公共のマナーの意義や必要性を理解し、規範意識の高揚や公共のマナー向上に繋がった。

##### イ 縦割り集団活動

1～6年で構成される縦割り班による集団遊びを月1回行っている。6年生が中心となり遊びの準備や内容の説明など、低学年の手を引きながら活動している。異学年と交流する機会を多く持つことで、お互いを認め、思いやる気持ちが育ってきた。

##### ウ ワールドキャラバン

国際理解の一環として、イラン・中国・ベトナム出身の講師を招き国際交流を行った。各国の紹介を聞き、各国の文化に触れた。また、給食を一緒に食べ文化交流し、子どもたちが異文化を積極的に理解しようとする態度と国際感覚の育成を図った。

##### エ 福祉体験（手話・車いす・アイマスク）

福祉についての理解を深めるために、講話と体験を通じて親子で考える学習会を行った。講師を招いて、手話の大切さや簡単な手話で言葉を交わした。車いすに乗っている相手の気持ちを考えてゆっくりと押したり、段差を乗り越える体験を行った。

##### オ くさぬき隊・はっぱ隊の活動

参加は、学年を問わず「有志による自由参加」とした。主に、5月～10月は花壇の草抜き、11月～3月は枯葉の掃除を昼休みに行い、自主的に環境美化に関わる喜びと勤労意欲を高めた。また、隊員証として多数参加児童には、バッチが与えられ表彰も行った。



【資料1 ワールドキャラバン】



【資料2 福祉体験】



【資料3 くさぬき隊】

## (2) 人権教育

### ア 「人権の花」運動

7月の上旬に種をまき、毎日水やりをして育てる。育てた花は、本校の隣にある「すえひろ老人の家」に贈呈した。芽がうまくでなかったものや自然の災害により折れてしまったものもあり、容易にはいかないことを実感するとともに花を咲かせることができた喜びを感じる事ができた。

### イ 人権メッセージや人権教室

今年度は、高学年を対象に人権メッセージの作成に取り組んだ。差別や偏見に対して感じることなどを考え、人権意識を高める機会となった。

人権教室では、「いじめ」という行為を例に、登場人物それぞれの気持ちを考えることを通して、他人への思いやりやいたわりの心を学ぶ機会となった。

## (3) 道徳教育

### ア 全学級による道徳の授業公開

11月いばらき教育月間に合わせ、全校一斉に道徳の授業公開を実施した。心のノートを活用しながら、生活していく中で必要なきまりやマナーなどを身に付けたり、学校生活において、どんなきまりがあるといいかを話し合ったりする活動を通して、学校生活をよりよいものにしようとする態度が身に付いてきた。

## 5 成果

体験活動の中で失敗や成功を繰り返すことで、友達を思いやり、協力し合うことの大切さや周りの人への感謝の思いが育っていると考える。特に、くさぬき隊・はっぱ隊の活動では、当初5・6年生を中心に活動するものだったが、日を追うごとに人数は増えていき、今では全学年が自由に参加し、進んで奉仕活動を行う姿が見られるようになった。自己決定させることで主体的・継続的な活動となり、子どもたちの成就感や有用感に繋がる事ができたと考えている。

## II 今後の課題

人権について考える場面や体験する場面を設けることで、児童の人権意識を高める機会になった。しかし、その場限りの活動とならないよう継続して家庭や地域にも生かすことが必要だと考える。そのためには、学校と家庭、地域が連携して人権尊重への理解を深めていかなければならない。

## III 人権コーナー設置の様子

